

# カンキツ緑かび病に対するベノミル剤とイミノクタジン酢酸塩剤 の混用散布およびテブコナゾール・トリフロキシストロビン剤単 用散布の耐雨性と残効性

武田知明

和歌山県果樹試験場

The rainfastness and residual efficacy of the simultaneous application of benzimidazoles and iminoctadine triacetate, and a single application of a combination of tebuconazole and trifloxystrobin in the control of citrus green mold caused by *Penicillium digitatum*

Tomoaki Takeda

*Wakayama fruit tree Experiment Station*

## 摘要

ベノミル剤とイミノクタジン酢酸塩剤の混用散布、テブコナゾール・トリフロキシストロビン剤の単用散布についてカンキツ緑かび病に対する耐雨性と残効性を検討した。その結果、ベノミル剤とイミノクタジン酢酸塩剤の混用散布は、散布後の累積降雨量が 177mm の条件下であれば約 30 日間は高い防除効果を維持した。また、室内試験の結果から 300mm 程度の累積降雨があっても効果は低下しない可能性が示されたが、この点については圃場試験で確認する必要がある。テブコナゾール・トリフロキシストロビン剤は、耐雨性、残効性が劣るため緑かび病の防除においては実用性が低いと考えられた。